

4

人づくり・地域づくりの
推進

I 現況

私たちは、地球上の様々なものや資源を利用して、地球環境に負荷をかけながら生きています。化石燃料の燃焼による二酸化炭素排出をはじめ、私たちの行動が地球環境に影響を与え、世界中で起きている異常気象の要因となっていると言われています。一人ひとりが意識を変え、環境保全に主体性を持って取り組み、これまでの生活のあり方を見直し、環境への負荷が少ない持続可能な社会を目指していかなければなりません。

そのためには、自ら進んで環境問題に取り組む人材を育成する環境教育・環境学習の充実が不可欠となっています。

市では、市民センターでの環境講座やしゅうなん出前トーク、自然体験学習会等の環境学習の機会を提供しています。また、各地域では自主的に「清掃活動」、「花いっぱい運動」などの環境美化活動や、ほたる保護、棚田の保全など環境保全活動への取り組みなど、地域の特色を生かした活発な地域づくり活動が積極的に展開されています。

このような市内各地で展開されている「市民力」をいかした多種多様な地域活動は、まちづくりにおける大きな原動力であり、「地域づくり」は、まさに「人づくり」です。

今後も、「豊かな自然をはぐくみ 未来へはばたくまち 周南」の実現を「共に」目指し、地域づくり・人づくりの推進が必要です。

II 基本施策の実施状況

1 環境教育・学習の推進

(1) 環境教育・学習の基盤整備

平成27年8月、「伊ワタニ水素ステーション山口周南」の開所に合わせ、市の水素に関する取り組みなどを学べる場所として、地方卸売市場内に「市水素学習室」を開設しました。国内外から多くの視察者を迎え、市の知名度の向上に大きく貢献しており、平成29年度は、79団体、1,207人の利用がありました。

★分析と課題 現在、市では、産業振興の担当部署が主となり、水素利活用の啓発を行っています。水素利活用については、産業振興の観点からの取り組みのほか、二酸化炭素削減など、環境政策の観点からの取り組みも必要です。

今後の水素利活用に関する環境教育・学習については、部課横断的にそのあり方・体制等を検討する必要があります。

★方向性・目標 引き続き水素学習室の周知を図り、環境学習の深化を図る拠点として活用を推進します。



(2) 環境教育・学習の拡充

●しゅうなん出前トーク

市政に対する理解を深めていただくため、市職員が直接、市民の皆さんのところへ出向き、市の施策や事業について分かりやすく説明するとともに、意見交換を行う「しゅうなん出前トーク」を実施しています。平成29年度は環境関連のテーマで26件、1,019人の受講がありました。

・しゅうなん出前トーク（〔分野〕環境・水道中の環境関連テーマ）実施状況

	講座名	件数	人数(人)
1	水素を活用したまちづくり	14	604
2	ごみの分け方・出し方	10	320
3	周南市の環境について	2	95
	計	26	1,019

★分析と課題 「しゅうなん出前トーク」は市民の皆さんが市の施策や事業について理解するための制度として定着してきています。

★方向性・目標 市民に市政に関する理解を深めてもらうため、各課に協力を求め多様なテーマを展開するとともに、制度の周知に努めていきます。

●周南市版フィフティ・フィフティ

市内の小・中学校で環境教育の一環として学校が省エネルギーに取り組み、平成23年度の電気使用量よりも5%の削減を目標にしています。

★分析と課題 環境教育を行う上からも、学校での省エネルギーの取り組みは必要ですが、学習環境改善や学校活動推進によるエアコンの設置が増加するなど、学校を取りまく環境は大きく変化しており、フィフティ・フィフティ事業^{※1}としての取り組みの実施は検討する必要があります。

★方向性・目標 引き続き環境教育の充実を図り、学校におけるエネルギーの削減に取り組んでいきます。

・周南市版フィフティ・フィフティ実績

	平成23年度		削減目標 (23年度実績の5%)	平成29年度		実績	
	学校数	電気使用量		学校数	電気使用量	達成校	削減量
小学校	30	1,866,127kW	93,306kW	27	1,915,285kW	6	-49,158kW
中学校	16	1,256,329kW	62,816kW	14	1,243,123kW	3	13,206kW
計	46	3,122,456kW	156,122kW	41	3,158,408kW	9	-35,952kW

※1 フィフティ・フィフティ・・・公立の学校において、児童・生徒や教職員が協力して省エネ活動を行い、対象期間と比べて削減できた光熱費の半分をその学校に還

《4 人づくり・地域づくりの推進》

元する仕組み。なお、コミュニティ・スクールの取り組みにより地域に空き教室を開放したり、空き教室を利用して児童クラブを行うなど、学校において削減できた光熱費の比較が難しくなっているため学校への還元は休止しています。削減に向けた取り組みの成果が児童生徒に還元できるよう、削減率の高い学校には学用品を配付しています。

●こども議会

平成30年1月30日にこども議会を開催しました。市内小学校6年生の児童代表28名が「こども議員」として参加。「明るい！ゴミが少ない！生活環境が整っているまちにするために」をテーマにするなど、ごみに関することを中心に環境に対する提言がありました。

★方向性・目標 意見や提言は、今後の市政に反映できるようにしっかり検討していきます。

●やまぐちエコリーダースクールの認証

山口県では環境保全に対する正しい理解を深め、主体的な行動がとれる児童生徒を育成する、環境マネジメントシステムを取り入れ、全校規模で環境教育に取り組み、その成果が認められた学校を「やまぐちエコリーダースクール」として、市内では八代小学校と岐山小学校の2校が認証されています。

八代小学校ではギフチョウの飼育やナベヅルの保護活動、その他生物の生息環境を守るための環境美化活動を行っています。

岐山小学校では、平成24年から取り組んでいるペットボトルや空き缶等の回収や、児童発案による公園の清掃活動、地域の鮎の放流活動に参加するなど、地域と連携した取り組みを行っています。市民センターの文化祭で地域の皆さんに活動の様子や成果についてパネル展示を行っています。

★分析と課題 リサイクル活動や花いっぱい運動など環境に関する取り組みは、地域の協力を得ながら進めています。活動を通じて、地域と関わりが増え環境教育・環境学習だけでなく、地域でも子どもが活躍できています。

★方向性・目標 学校での環境教育・環境学習だけでなく、活動を通して地域と関わるにより学びの幅が広がることから引き続き地域の特性を生かした活動に取り組みます。

●地域資源を活用した学習

水素学習室や水素ステーションなどの地域資源を活用し、本物に触れる地域学習に取り組んでいます。

平成29年度は、小・中学校9校が水素学習室や水素ステーションを訪問し、次代のクリーンエネルギーとして期待される水素について学び、エネルギーや環境についての学習を深めています。

★分析と課題 現在、市では、産業振興の担当部署が主となり、水素利活用の啓発を

《4 人づくり・地域づくりの推進》

行っています。水素利活用については、産業振興の観点からの取り組みのほか、二酸化炭素削減など、環境政策の観点からの取り組みも必要です。

今後の水素利活用に関する環境教育・学習については、部課横断的にそのあり方・体制等を検討する必要があります。

★方向性・目標 水素学習室や水素ステーションなどを有意義に活用し、環境学習の深化を図るとともに地域資源を活用し地域を知り、地域づくり、人づくりにつなげていきます。

●樹木観察会

西緑地の樹木見本林や万葉の森を活用し、多くの市民が自然とふれあい、環境について学習することを目的に、樹木観察会を開催しました。5月に開催し、25人の市民の参加がありました。

★方向性・目標 公園愛護会に関わる方の参加により、各公園に樹木名板の取付・補修等、愛護会活動にも役立つため、今後も年1回の開催及び他講座での開催を予定しています。



●ツルの里案内人

特定非営利活動法人ナベヅル環境保護協会は、地域住民を中心にツルの里案内人(ボランティアガイド)を設け、ツルの見学者に対し、野鶴監視所や敷地内でツルの生態解説などを行っています。平成29年度は11月から3月の間、延べ39日間活動されました。

特定非営利活動法人により、土・日・祝日を中心に、継続してボランティアガイドが行われています。自主的な取り組みとして今後も継続をしていただくことを期待しています。

★方向性・目標 出前トークや研修受け入れなど、今後は別の形での普及啓発も行っていきます。

●エコツアーリズム

地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を伝えるエコツアーリズムは(一財)周南観光コンベンション協会や大田原自然の家により、平成29年度は市内で74回実施されました。

(一財)周南観光コンベンション協会による、自然散策等のウォーキングツアーが定期的に開催され、毎回多くの参加があります。

★方向性・目標 自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を伝えるエコツアーリズムを今後も継続的に実施していきます。

●TOKUYAMA ZOO CLASS

工作や体験と動物の観察を組み合わせた学習プログラムで毎月テーマを変えて実施しています。自然の営みを知り、環境問題を考える内容となっています。

★分析と課題 もともと平日の動物園スクールという位置づけの中で、動物の生息環境について学習してもらっています。そのため参加者が限定的です。

★方向性・目標 環境学習を進める新しい取り組みとして、徳山動物園インタープリテーションプログラムを週末を中心に行います。現状はプログラムの基本計画を策定しており、平成30年度は実施に係るボランティアの募集・研修などを行っています。

●大田原自然の家

大田原自然の家は、青少年が自然に親しみながら、集団宿泊生活等を通じて、情操や社会性を豊かにし、心身を鍛練する中で、青少年の健全育成を図る社会教育施設です。素朴な田舎体験や自然とのふれあいを求める方には最適です。

子どもから家族、一般、指導者を対象に様々な事業を実施し、平成29年度は211団体、延べ9,449人の参加がありました。

★分析と課題 延べ利用者数は毎年1万人前後であり、施設の利用に関しては、順調に推移しています。

★方向性・目標 施設の老朽化が進み、また建物が土砂災害特別警戒区域に立地していることから、事業は継続するものの、他所へ移転することを決定し、移転先については検討中です。

悪天候の際には、無理をしてプログラムを開催しないなど、移転先が決定するまでの間は、特に利用者の安心・安全を第一にした施設運営を行うこととしています。

・大田原自然の家の利用状況



●キッズ・エコチャレンジ

児童が自主的に地球温暖化対策について考え、具体的に行動することを通じて環境意識を高めることを目的として、平成21年度から「キッズ・エコチャレンジ」を実施

《4 人づくり・地域づくりの推進》

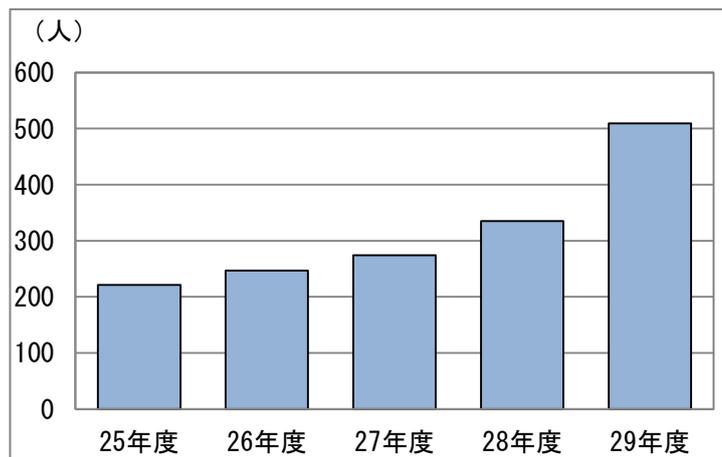
しています。

これは小学校4年生から6年生を対象に、夏休み期間に温暖化対策について自分でできることを考え、行動し、その結果をチャレンジ大作戦シートに記入するものです。

平成29年度は、16小学校、509人が参加し、アイデア、独創性、実効性及び節電実績等について、市環境学習推進部会で審査の上、大賞1人、金賞2人、銀賞3人、銅賞2人、努力賞7人の計15人、また、学校賞として大河内小・勝間小・櫛浜小・鼓南小・高水小・富田西小・和田小学校の7校を表彰しました。

・キッズ・エコチャレンジ参加者数

年度	参加者数
平成25年度	221人
平成26年度	247人
平成27年度	274人
平成28年度	335人
平成29年度	509人



●ごみ処理施設見学バスツアー

家庭ごみの処理施設等の見学を通じて、リサイクルの仕組みを理解し、環境に対する意識高揚を目的に年1回開催しています。

★分析と課題 平成29年10月23日に「ごみ処理施設見学バスツアー」を開催予定でしたが、台風21号の接近に伴い、中止しました。

★方向性・目標 今後も継続して実施していきます。

●水の教室

6月の水道週間を中心に、小学4年生の児童と保護者を対象とした環境学習事業で、飲み水ができるまでの工程と使用後の下水処理の工程を通じて、地球規模で行われている水循環の輪の中に私たちの生活が深く関わっていることを学習し、水を大切に使うこと、水を汚さないことが健全な水環境の継続につながることを啓発しました。

平成29年度は5校、258人の参加がありました。

★分析と課題 「水の教室」の内容についてマンネリ化してきているため、新しい視点で構成等を模索していく必要があります。

★方向性・目標 今後も、小学校で水について学習する時期等に「水の教室」と施設見学を実施していきます。



《4 人づくり・地域づくりの推進》

●水辺の教室

平成 29 年度は水辺の教室を島地川、黒岩川で開催しました。

参加者数は、延べ 100 人で、指標生物の確認状況から判定する水質階級は、2 箇所とも「きれいな水」に該当しました。

★分析と課題 親と子が一緒になって、身近な河川等の水辺に親しむことで、そこに棲んでいる水生生物などを楽しく遊びながら観察し、自然をいたわる優しい心の醸成につながっています。

★方向性・目標 水辺の自然環境を守るための周知活動として、「水辺の教室」の参加人数の増加に努めていきます。

《4 人づくり・地域づくりの推進》

・水辺の教室開催状況 水生生物の調査結果

調査場所名		島地川（新平ヶ原公園）				黒岩川（黒岩峡）				
調査日		平成29年7月25日				平成29年8月1日				
主催		島地川ダム周辺環境整備地区管理協議会				周南市熊毛環境衛生推進協議会				
参加者数（主催者を含む。）		43人				57人				
天気		晴				晴				
水質		指標生物		見つかった指標生物の欄に○印を、数が多かった上位から2種類（最大3種類）に●印をつける。						
きれいな水	水質階級Ⅰ	1. カワゲラ類	○				○			
		2. ヒラタカゲロウ類	○				●			
		3. ナガレトビケラ類	○				○			
		4. ヤマトビケラ類	○							
		5. アミカ類								
		6. ヨコエビ類					●			
		7. ヘビトンボ	●				○			
		8. ブユ類					○			
		9. サワガニ	●				●			
		10. ナミウズムシ					○			
ややきれいな水	水質階級Ⅱ	11. コガタシマトビケラ	○							
		12. オオシマトビケラ	○							
		13. ヒラタドロムシ類	○				○			
		14. ゲンジボタル	○							
		15. コオニヤンマ					○			
		16. カワニナ類	○				○			
		17. ヤマトシジミ								
		18. イシマキガイ								
きたない水	水質階級Ⅲ	19. ミズカマキリ								
		20. ミズムシ								
		21. タニシ類								
		22. シマイシビル					○			
		23. ニホンドロソコエビ								
		24. イソコツブムシ類								
大変きたない水	水質階級Ⅳ	25. ユスリカ類								
		26. チョウバエ類								
		27. アメリカザリガニ								
		28. エラミミズ								
		29. サカマキガイ								
水質階級の判定	水質階級		I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1. ○印と●印の個数		6	5	0	0	8	3	1	0
	2. ●印の個数		2	0	0	0	3	0	0	0
	3. 合計（1.欄+2.欄）		8	5	0	0	11	3	1	0

《4 人づくり・地域づくりの推進》

●環境関連イベントの開催

市では、ホテル観賞、農業体験、星空観察、清掃活動、地産地消推進事業、リサイクルなどの各種環境関連のイベントを実施しています。

・環境関連イベント

開催時期	名称／内容	関係課
通年	大田原自然の家のイベント	生涯学習課
	豊鹿里パークのイベント	鹿野総合支所 産業土木課
4月	城下町徳山の桜のトンネルを歩こう	観光交流課
	大道理芝桜まつり	向道支所
	新緑の永源山公園と美術館と富田の史跡	観光交流課
4月～9月	星空観望会（月・金星・火星・木星・土星・天の川・季節の星座などを観察）全7回	コアプラザかの
5月	石楠花めぐり	観光交流課
	永源山公園つつじ祭り	公園花とみどり課
	榎浜干潟フェスティバル（干潟にいる生物の観察会）	榎浜市民センター
	西緑地樹木観察会（西緑地の樹木見本林や万葉の森での観察会）	公園花とみどり課
6月	「水の教室」（飲み水ができるまでの工程及び使用後の下水処理の工程を通じて、地球規模の水循環の輪の中に私たちの生活が深く関わっていることを学習する。）	上下水道局総務課
	第26回トワイライトフェスティバル（ホテルの観賞、ホテルかご作り、俳句会、バザーなど）	和田市民センター
	長穂ほたる祭り（ホテルのくす玉割り、バザーなど）	長穂市民センター
	ささゆり・紫陽花めぐり	観光交流課
	ほたる観賞のタベ	向道支所
	ほたるのタベコンサート（ホテルの観賞、各種団体の生演奏など）	鹿野総合支所 産業土木課
	大潮ほたる祭り（ホテル観賞、バザーなど）	鹿野総合支所 産業土木課
京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座（第15回）（川と森についての講義、ため池の水質分析）	公園花とみどり課	
7月	森と湖に親しむ集い	新南陽総合支所 地域政策課
	大潮夏の体験学習	鹿野・大潮地区 （大潮の里をまもる会等）

《4 人づくり・地域づくりの推進》

開催時期	名称／内容	関係課
8月	親と子の水辺の教室	熊毛総合支所市民福祉課 熊毛環境衛生推進協議会
	第11回周南市エコフェスタ（牛乳パックでしおり作り体験コーナー、折り紙コーナー、リユース品抽選会など）	リサイクル推進課
	自然公園クリーンデー（太華山清掃）	檜浜市民センター
10月	ツルのねぐら整備ボランティア（ナベヅルのねぐらと餌場の整備）	生涯学習課
	永源山公園ゆめ風車まつり	公園花とみどり課
	永源山公園「ゆめ風車」チューリップ満開作戦（チューリップの球根を植えてもらうイベント）	公園花とみどり課
	やまぐち総合ビジネスメッセ（燃料電池自動車試乗会、外部給電デモ展示）	商工振興課
	まちと森と水の交流会	農林課
11月	しゃくなげ植樹祭	鹿野総合支所産業土木課
	周南みなとまつり（燃料電池自動車及び外部給電デモ展示）	観光交流課 商工振興課
	周南こどもゆめまつり	熊毛総合支所地域政策課
	周南ふるさとふれあい物産展（燃料電池自動車試乗会、外部給電デモ展示）	商工振興課
	ルーラル 315・376 フェスタ（沿線の朝市や催し物を結ぶ地域イベントで市内の会場で農山村漁村の女性たちが中心となって朝市やイベント、体験コーナーを開催）	農林課
	総合防災訓練（燃料電池自動車及び外部給電デモ展示）	防災危機管理課 商工振興課
	しゅうなん開運フェス（燃料電池自動車及び外部給電デモ展示）	広報戦略課 商工振興課
	長野山と漢陽寺の紅葉散策	観光交流課
	観音めぐりと永源山公園の紅葉	観光交流課
	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座（第16回）（森と里と海についての講義、西緑地の見学）	公園花とみどり課
12月	周南ゆめ物語（燃料電池自動車及び外部給電デモ展示）	商工振興課
	周南ランプフェス（燃料電池自動車及び外部給電デモ展示）	地域づくり推進課 商工振興課
平成30年2月	第12回周南市エコフェスタ（紙すき体験、雑がみ工作コーナー、リユース品抽選会など）	リサイクル推進課

2 地域住民、団体などと連携した環境保全活動

(1) 地域住民、団体等の連携・協働による取り組みの推進

●環境アドバイザー等の登録数

山口県は地域で行われる環境に関する学習会、講演会等を利用した環境に対する体験学習、工作教室等に対し、「環境アドバイザー(講演型環境学習指導者)」又は「環境パートナー(体験型環境学習指導者)」の派遣制度を設けています。

また、環境省のエコクラブ事業に基づき、こどもエコクラブに対し運営面及び実践活動について指導や助言を行う「こどもエコクラブアドバイザー」を派遣しています。

・周南市在住の環境ボランティア

環境アドバイザー	3人
環境パートナー	7人
こどもエコクラブアドバイザー	3人
地球温暖化防止活動推進員	5人

http://eco.pref.yamaguchi.jp/learning/manabu/ap_search.htm

●こどもエコクラブの団体数及び人数

こどもエコクラブは、環境省へ申請登録すると、子どもたちが楽しみながら、環境保全活動や学習が行える資料配布等の支援を受けることができる制度です。

平成29年度における登録数は1団体、15人です。

・こどもエコクラブの登録数及び人数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
登録数(団体)	1	1	2	1	1
人数(人)	20	15	94	15	15

●環境清掃里親制度

環境清掃里親制度は、道路や公園を「子ども」に見立て、市民の皆さんに親代わりになっていただき、我が子へ注ぐ愛情と同様に、公共施設のお世話をしていただくもので、市民の皆さんと市が一体となった環境美化活動を強力に推進し、ボランティア団体・グループの活性化を目的としています。

市は年4回以上の清掃をされる団体・グループに対し、ゴミ袋の支給、清掃美化活動中のケガなどに適用される保険(見舞金)の手続き、ボランティア団体及びグループ名を記した表示板の設置等を担当しています。

★分析と課題 過去3年の里親団体と人数(平成27年度:57団体1,662人 平成28年度:54団体1,595人 平成29年度:52団体1,481人)と制度の参加人数が減りつつあります。

★方向性・目標 制度の周知徹底をして増加につなげていきます。

・登録数及び人数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
登録数 (団体)	60	58	57	54	52
人 数 (人)	1,634	1,547	1,662	1,595	1,481

●公園愛護会

公園が市民の憩いの場、楽しい遊び場となるよう清掃や児童の見守りを行う団体を支援する制度であり、平成 29 年度は 148 団体です。公園愛護会が結成されていない公園もあります。

★方向性・目標 公園愛護会設立などの相談に力を入れ、公園を管理いただける公園愛護会がさらに増加するよう努めていきます。

●景観届出の実施

市では、景観に対する意識や関心の高揚を図り、良好な景観の形成を推進していくため、平成 24 年度から「景観法に基づく届出制度」を開始しています。

この届出制度は、市内全域の建築・改築される建築物等において、周辺の景観と調和が図られているか、景観を阻害する要因となっていないかなどを景観形成基準に基づき確認するものです。

特に、市の顔として賑わいの創出を図る「都心軸地区」と山代街道など歴史的景観の保全を図る「鹿野地区」の 2 箇所を「景観形成重点地区」としています。

★分析と課題 景観の届出については、平成 29 年度は 519 件の届出が提出されており、関係者への周知が進んでいると思われます。

★方向性・目標 景観形成重点地区をはじめとし、市内全域で良好な景観が形成されるように、景観形成基準に沿った指導を進めていきます。

●地域対話の実施

地域対話とは、企業が地域と相互理解を図るために「対話」を通じて、地域住民の不安や疑問に応え、また自主的な取り組みを紹介し、事業活動への理解を深めてもらう自主活動の一つです。平成 29 年度は住民の方 71 人の参加がありました。

・地域対話の実施状況

実施状況	
周南地区地域対話	平成 29 年 11 月 10 日 (金)

(2) ごみのないきれいなまちづくりの推進

●冬の一斉清掃

平成 29 年 12 月 16 日 (土)、市民の皆さんをはじめ、中学校や企業、団体から、約 300 人の方々に参加いただき、周南冬のツリーまつり集中イベント会場周辺の



《4 人づくり・地域づくりの推進》

清掃を行いました。

★方向性・目標 現状として、参加者の集計は公共の場で職員が行っているものであり、実際に参加している詳細人数の把握は難しいですが、今後とも参加者の数が増えていくように企業など周辺団体への呼びかけ等を行っていきます。

●周南市空き缶等のポイ捨てその他の迷惑行為禁止条例

市では、「周南市空き缶等のポイ捨てその他の迷惑行為禁止条例」を平成23年7月施行しました。

空き缶等のポイ捨て禁止、飼い犬のふん害防止等に加え指定区域内での路上喫煙、自ら所有・占有しない動物へのえさやり、落書き等を禁止しています。

指定区域内での路上喫煙の禁止行為の違反者には過料処分を行っています。

★分析と課題 ポイ捨て禁止や路上喫

煙に関しては、看板の設置や啓発活動により市民の意識が浸透していると考えられますが、一部迷惑行為が続いている場所もあります。

★方向性・目標 希望される市民・団体等に対して、引き続き啓発看板を交付するなど、市民への啓発活動を行っていきます。



■周南市環境基本計画における目標

項 目	基準年度 (平成25年度)	進捗状況 (平成29年度)	目 標 (平成31年度)
公園愛護会結成団体数	128 団体	148 団体	135 団体
きれいなまちづくり清掃活動参加者数	0 人	2,312 人	4,000 人
犬の飼い方教室・講座の受講者数 (累計)	99 人	198 人	600 人
環境清掃里親登録団体数	56 団体	52 団体	100 団体